

国の動向

<Society5.0の実現>
○IoTで全ての人・モノがつながることで、新たな価値を生み出し、社会でのイノベーションを通じて、一人一人が希望を持ち、快適に活躍できる社会

<IT新戦略：デジタル強靱化>
○昨今のピンチをチャンスに変え、デジタル化を社会変革の原動力とするデジタル強靱化を推進し、働き方・学び方・くらしの改革を進める

社会の動向

<新型コロナウイルス感染症を契機に>
○新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、長期間の接触機会の減少の中にあっても、社会が機能していくためには、「新しい生活様式」を確立していく必要がある。

本市の課題

<超高齢社会の進展> 医療・福祉サービス、担い手の不足等による活力の低下
<産業構造の大転換> 国際競争の激化、情報通信技術の革新の進展等を踏まえた挑戦
<大規模自然災害等> 大規模自然災害等による市民生活や企業活動の停滞
<厳しさを増す財政> 法人市民税一部国税化、維持管理費の増大等の厳しい財政状況
<その他> 上記課題等への対応へICTを積極的に活用していくことを可能にする環境

本市の今後の可能性

<多様な担い手が支える新たな社会システム>
○先進的に展開する地域自治システム・共働の基盤を活用して、自助・互助・共助が推進され、環境変化に柔軟に対応が可能

<産業の強靱化>
○次世代モビリティ等の先進的な取組と、都市部と山村部の共存を生かした新たな事業機会の可能性

<観光・交流の発展、国際都市としての成長>
○リニア中央新幹線等のネットワーク拡充を活用した国内外の交流・連携の活発化、山村部を生かした国際都市としての成長

<多様なライフスタイルの実現>
○山村部と都市部の良好なアクセス性を活用した交流・移住プロジェクトなど、豊かなライフスタイル実現の可能性

<豊田市らしい「新しい生活様式」の実現>
○左記に記載の本市の可能性とICTを組み合わせることで、豊田市らしい「新しい生活様式」の実現が可能

豊田市ICT活用ビジョン

【基本理念：目指す姿】 ICTの活用で実現する安心で活力と魅力あるまち豊田 **【対象期間】 令和2年度から令和6年度**

○当ビジョンは、「官民データ活用推進基本法第9条第3項」に規定された市町村官民データ活用推進計画として位置付けます。

ICT活用の視点

視点① 多様な活用と連携
・ICTの多様な技術等を積極的に活用し、多様な機関との連携により新たな変革・革新やサービスを創出

視点② 賢い利活用
・ICTの持つ特性を理解し、賢く利用し、様々な状況に効果的かつ迅速に活用

視点③ 正しい理解と安全・安心
・ICTの活用に必要な知識等を正しく理解するとともに、情報格差の是正を推進

ICT活用の3つの基本方針

基本方針1 ICTを活用した“ミライのフツー”の更なる推進
○関係機関と連携し、技術革新著しいICTを最大限に活用することで、将来を先取りした“ミライのフツー”を更に推進。
○新型コロナウイルス感染症を契機として、本市の可能性(都市と農山村、モビリティ等)とICTを組み合わせ、市民が安心して魅力を感じながら生活できる豊田市らしい「新しい生活様式」の実現を推進

基本方針2 安全・安心なICTの活用を推進する環境づくりの実現
○技術革新著しいICTは多様な場面で便利に活用することができる反面、その安全性等を理解して活用することが必要
○ICTを安全・安心に活用する際の人材育成や庁内の連携体制等の環境づくりを推進

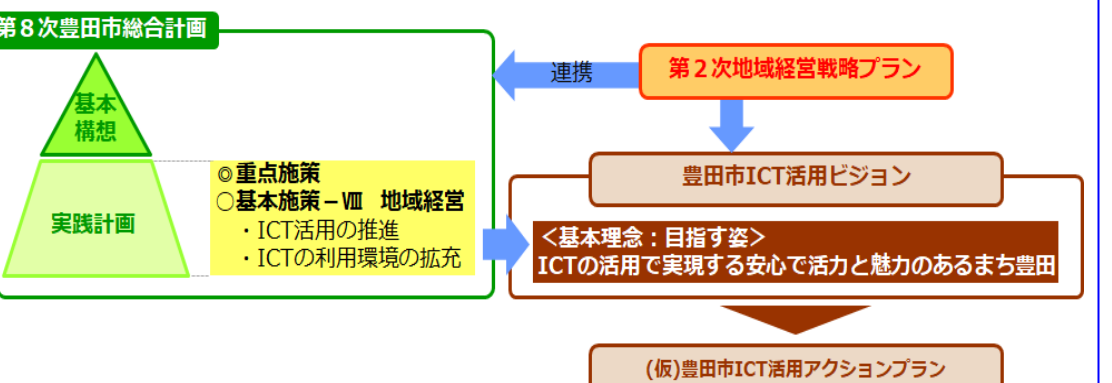
基本方針3 ICTを活用したスマートな行政運営の実現
○限られた人材・財源での行政運営を実現するために、AI・IoT・RPA等の新技術の持つ特性や多様性を理解し、行政運営の効率化・質の向上を推進
○新技術を活用して市役所のデジタル化、オンライン化を進め、行政運営の効率化を図り、新しい働き方等の実現を推進

ICT活用の視点と基本方針の関連性

国の動向(社会の動向)と本市の課題(本市の可能)は、第8次豊田市総合計画(基本施策：Ⅷ 地域経営)を通じて、ICT活用の視点と基本方針に反映される。

豊田市ICT活用アクションプランについて

○豊田市ICT活用ビジョンに基づいて、第8次豊田市総合計画後期実践計画において取り組む事業を位置づけ、本市としての実施計画として策定する。



今後の予定

